

基礎看護学

1 構成員

	平成15年3月31日現在
教授	4人
助教授	1人
講師（うち病院籍）	0人（0人）
助手（うち病院籍）	2人（0人）
医員	0人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	4人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技官（教務職員を含む）	1人
その他（技術補佐員等）	1人
合 計	13人

2 教官の異動状況

松島 肇（教授）	（期間中現職）
石津みゑ子（教授）	（期間中現職）
宮本 愛（教授）	（期間中現職）
渡邊 泰秀（教授）	（H14. 6. 1～現職）
小林 貴子（助教授）	（期間中現職）
松本小百合（助手）	（期間中現職）
木山 幹恵（助手）	（H14. 4. 1～現職）
平井栄利子（教務職員）	（期間中現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成14年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	13編（8編）
そのインパクトファクターの合計	16.22
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	4編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	10編（9編）
そのインパクトファクターの合計	1.59
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0編（0編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0.00

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 松島 肇 (2002) 細胞毒性廃棄物の処理システム構築に関する研究. Histo-Logic Japan 30 (2): 17-23.
2. Watanabe Y., Matsuoka I., Kimura J. : Chronic effect of amiodarone on $\text{Na}^+/\text{Ca}^{2+}$ exchange current in guinea pig cardiac ventricular myocytes. Jpn. J. Pharmacol. 90: 21-27, 2002.
3. Watanabe Y., Iwamoto T., Shigekawa M., Kimura J. : Inhibitory effect of aprindine on $\text{Na}^+/\text{Ca}^{2+}$ exchange current in guinea-pig cardiac ventricular myocytes. Br. J. Pharmacol. 136: 361-366, 2002.
4. 木山幹恵 (2003) 医療の高度化にともなう看護の倫理と教育. 創価大学大学院紀要24: 191-207.
5. 平井栄利子, 松島 肇 (2002) 医療機関における消毒剤使用の現状と課題. 医療廃棄物研究 15 (1) : 33-42.
6. 平井栄利子, 井上久美子, 矢野久子, 石黒千映子, 松島 肇 (2003) 静岡県を訪問看護ステーション利用者における在宅医療廃棄物処理の現状. 医療廃棄物研究 15 (2): 139-147.

インパクトファクターの小計 [4.849]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 配島由二, 松島 肇 (2003) 実験動物および病理系廃棄物処理に適した新技術 - WR2 Tissue Digester -. 医療廃棄物研究 15 (2): 107-117.
2. 米澤弘恵, 石津みゑ子, 甲斐一郎 (2002) 在宅高齢者の孤独感と同居家族/別居子/友人・知人との関係—家族形態による比較. Health Sciences 18 (3): 194-212.
3. 佐藤美紀, 米澤弘恵, 石津みゑ子, 須賀京子, 池本梨絵 (2002) 三交替勤務に従事する女性看護師の蓄積的疲労と主観的睡眠感との関係. 日本看護医療学会誌 4 (1): 28-35.
4. Hinata M., Yamamura H., Li L., Watanabe Y., Watano T., Imaizumi Y., Kimura J. : Stoichiometry of $\text{Na}^+/\text{Ca}^{2+}$ exchange is 3: 1 in guinea-pig ventricular myocytes. 545: 453-461, J Physiol., 2002.
5. Li L., Matsuoka I., Suzuki Y., Watanabe Y., Ishibashi T., Yokoyama K., Maruyama Y., Kimura J. : Inhibitory effect of fluvastatin on lisophosphatidylcholine-induced non-selective cation current in guinea-pig ventricular myocytes. Mol. Pharmacol. 62: 602-607, 2002.
6. Hinata M., Yamamura H., Li L., Watanabe Y., Watano T., Imaizumi Y., Kimura J. : Reexamination of the stoichiometry of $\text{Na}^+/\text{Ca}^{2+}$ exchange with whole-cell voltage clamp of guinea pig ventricular myocytes. Ann. N. Y. Acad. Sci., 976, 154-156, 2002.
7. 矢野久子, 白井みどり, 石黒千映子, 森 仁実, 平井栄利子, 佐々木菜穂, 広瀬幸美, 松島肇 (2002) 訪問看護ステーションにおける在宅医療廃棄物の適正処理のための教育支援—患

者・家族の相談・指導内容からみた実態. 医療廃棄物研究 15 (1): 17-31.

インパクトファクターの小計 [11.366]

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 松島 肇 (2002) 溶融処理, 主としてガス化溶融処理技術. 第21回医療廃棄物研究講演会: 7-9.
2. 松島 肇 (2002) 医療機関における特別管理産業廃棄物の減量化計画例と技術的評価に関する研究 (第1報). 第21回医療廃棄物研究講演会: 35-37.
3. 松島 肇 (2002) バイオハザードとバイオセーフティー-感染性廃棄物処理の視点から-. 平成14年度東海・北陸地区国立学校等教室系技術職員合同研修 (生物コース): 1-14.
4. 松島 肇 (2002) 集団における健康現象. 産業看護基礎講座 (短縮Nコース): 1-8.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 松島 肇 (2002) 感染性廃棄物の処理処分方法. 第7回日医総研セミナー記録集 (感染性廃棄物処理 本当のところはどうなんだ-感染性廃棄物の安全処理管理マニュアル-) : 6-21.
2. 松島 肇 (2002) 在宅医療廃棄物の危険性と対応. 日本医事新報 4072: 89.
3. 松島 肇 (2002) 医療廃棄物管理総論. 第2回日本バイオセーフティ学会総会・学術集会講演抄録集: 39-42.
4. 松島 肇 (2003) 日本医師会感染性廃棄物安全処理推進者養成講座 オリエンテーション 感染性廃棄物関連用語集. 日本医師会総合政策研究機構: 1-39.
5. 松島 肇 (2003) 日本医師会感染性廃棄物安全処理推進者養成講座 感染性廃棄物の処理処分の体系と方法. 日本医師会総合政策研究機構: 1-49.
6. 松島 肇 (2003) 感染性廃棄物処理の現状と課題. 第11回医療廃棄物研修会: 61-70.
7. 松島 肇 (2003) 医療廃棄物の法規制及び諸問題. シンポジウム抗がん剤の取扱いから医療廃棄物を問う-医療従事者の被曝問題から環境問題まで-: 1-14.
8. 小林貴子 (2002) タオルの絞り方にみる看護学生の生活 看護実践の科学27 (5): 102

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
1. Kimura J, Watanabe Y, Li L, Watano T.: Pharmacology of Na⁺/Ca²⁺ Exchanger. Ann. N. Y. Acad. Sci., 976, 513-519, 2002.
 2. 木村純子, 渡邊泰秀, 綿野智一: Na⁺-Ca²⁺交換輸送体の薬物学的修飾. 心臓, 34: 306-312, 2002.

インパクトファクターの小計 [1.593]

(4) 著 書

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(5) 症例報告

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

4 特許等の出願状況

	平成14年度
特許取得数（出願中含む）	0件

5 医学研究費取得状況

	平成14年度
(1) 文部科学省科学研究費	1件 (50万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (万円)
(4) 財団助成金	0件 (万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	1件 (50万円)

(1) 文部科学省科学研究費

- ・平井榮利子「低出生体重児を出産した女性の事例的調査からみた社会経済環境要因との関連」若手研究 (b) , 50万円（継続）

6 特定研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	1件	3件
(3) 学会座長回数	0件	2件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	6件
(6) 一般演題発表数	1件	

(1) 国際会議等開催・参加：

3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

1. Kimura J., Watanabe Y., Li L., Watano t. : Drugs that inhibit the $\text{Na}^+/\text{Ca}^{2+}$ exchange. The 19th Meeting of the Japanese Section of the International Society for Heart Research, Yamagata, Oct., 2002.

4) 一般発表

口頭発表

1. Watanabe Y., Kimura J. : Effect of azimilide blocking on $\text{Na}^+/\text{Ca}^{2+}$ exchange current in guinea-pig cardiac vebtricular myocytes. The 19th Meeting of the Japanese Section of the International Society for Heart Research, Yamagata, Oct., 2002.

(2) 国内学会の開催・参加

2) シンポジウム発表

- ・松島 肇 (2002) 溶融処理，主としてガス化溶融処理技術．第21回医療廃棄物研究講演会，6月，東京都．
- ・松島 肇 (2002) 医療廃棄物管理総論．第2回日本バイオセーフティ学会総会・学術集会，11月，東京都．
- ・松島 肇 (2003) 医療廃棄物の法規制及び諸問題．第2東京弁護士会シンポジウム抗がん剤の取扱いから医療廃棄物を問う－医療従事者の被曝問題から環境問題まで，3月，東京都．

3) 座長をした学会名

- ・松島 肇 (2002) 第21回医療廃棄物研究会．東京都
- ・渡邊泰秀 (2002) 第107回日本薬理学会関東部会，甲府

5) 役職についている学会名とその役割

- ・松島 肇 医療廃棄物研究会 副会長&理事
- ・松島 肇 日本医用マスペクトル学会 評議員

- ・松島 肇 大学等環境安全協議会 評議員
- ・松島 肇 日本医用マスマスベクトル学会東海支部 幹事
- ・渡邊泰秀 日本薬理学会 評議員
- ・小林貴子 日本糖尿病教育・看護学会 評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリース数は除く）	3件	1件

(2) 外国の学術雑誌の編集

- ・松島 肇 Chemical Health & Safety (American Chemical Society, U.S.A.) Editorial Board

(3) 国内外の英文雑誌のレフリース

9 共同研究の実施状況

	平成14年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	5件
(3) 学内共同研究	1件

(2) 国内共同研究

- ・配島由二（国立医薬品食品衛生研究所療品部）「細胞毒性廃棄物の処理システムの構築に関する研究」
- ・矢野久子（名古屋市立大学看護学部）他「在宅患者の感染性廃棄物取扱いに関する研究」
- ・木村純子，松岡 功（福島県立医科大学医学部薬理学）NCXに対する心臓保護薬の作用の検討
- ・岩本隆宏，重川宗一（国立循環器病センター）NCXに対する分子生物学的機序の検討
- ・河口てる子（日赤看護大）安酸史子（岡山大学）小林貴子（浜松医大）他：基盤研究（B）「看護の教育的機能向上のための『看護実践モデル』の検証および患者教育の体系化」

(3) 学内共同研究

- ・林 秀晴（第三内科）心筋細胞の細胞電気生理・薬理学的検討

10 産学共同研究

	平成14年度
産学共同研究	0件

11 受賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 細胞毒性廃棄物の処理システムの構築に関する研究

医療関係機関等における消毒剤，抗悪性腫瘍剤，TSE（伝達性海綿状脳症）廃棄物の適正な処理システムを構築することを目的として研究した。消毒剤，抗悪性腫瘍剤の処理については，活性汚泥に対する毒性評価や浜松医科大学医療系廃水処理施設におけるそれらの挙動から，活性汚泥法によって除去できることを明らかにした。TSE廃棄物の新処理技術として，加圧式アルカリ加水分解法（Waste Reduction 2）が適用できることを実験的に解明した。そこで，医療関係機関等で応用できる細胞毒性廃棄物の具体的な処理システムを提案した。

（松島 肇，配島由二）

2. 在宅患者の感染性廃棄物取扱いに関する研究

在宅医療行為に伴って排出される廃棄物は，廃棄物処理法では一般廃棄物（生活系）であり，医療関係機関等からの感染性廃棄物に該当することはない。静岡県，愛知県，岐阜県，富山県，神奈川県内訪問看護ステーションの在宅患者に感染性を持つ可能性のある廃棄物の取扱いに関するアンケートを実施した。それらの結果から，注射針など鋭利なもの等の取扱いに一部問題があることが明らかになった。また，日常生活における在宅医療の中で，患者等は包括的な支援を求めており，訪問看護師は，在宅感染性廃棄物の処理方法を含めたケアを提供していく必要がある。

（松島 肇，平井栄利子，矢野久子，石黒千映子）

3. $\text{Na}^+/\text{Ca}^{2+}$ 交換機構と抑制薬

心筋細胞の表面膜にある $\text{Na}^+/\text{Ca}^{2+}$ 交換輸送体は Na^+ と Ca^{2+} 交換するトランスポーターで，生理的には主に細胞外への Ca^{2+} 排出が主な経路である。また，病態的にも，心不全で $\text{Na}^+/\text{Ca}^{2+}$ 交換輸送体のmRNA，蛋白質が増加すること，遅延後脱分極がトリガーとなる不整脈の発生と大きく関わることが報告されている。しかしながら， $\text{Na}^+/\text{Ca}^{2+}$ 交換輸送体に作用する薬物はこれまでに僅かしか報告されていない。さらに未だ特異的な阻害薬は見つかっておらずその働きの詳細も分かっていない。最近，我々は有用な抗不整脈薬等の心臓保護薬であるアミオダロン，ベプリジル，アプリンジン，シベンゾリン，アジミライド，2,3-butanedione monoxime (BDM)，ドロネダロンがこの $\text{Na}^+/\text{Ca}^{2+}$ 交換輸送体を抑制することを見出した。引き続き現在臨床応用されている抗不整脈薬をはじめとする心臓保護薬が $\text{Na}^+/\text{Ca}^{2+}$ 交換輸送体に対してどのような効果をもたらすかを心筋細胞，遺伝子導入した培養細胞等で調べ，その作用機序を判明する。さらに， $\text{Na}^+/\text{Ca}^{2+}$ 交換輸送体に作用する薬物の化学構造学的特徴について検討する。

これらから $\text{Na}^+/\text{Ca}^{2+}$ 交換輸送体を抑制する薬物とその臨床的効果の解明，また， $\text{Na}^+/\text{Ca}^{2+}$ 交換輸送体の選択的な抑制薬等の病態に対する作用が明らかになれば，治療上・診断上さらに副作用の機構が判明し薬物開発の一助となると考える。

（渡邊泰秀，木村純子，松岡巧，岩本隆宏，重川宗一）

4. 低出生体重児を出産した女性の事例的調査からみた社会経済環境要因との関連

前年度行った事例調査を通じて，養育者の関わりとこどもの身体精神発達についての概念枠組み

をもとに調査票を作成し、多数事例調査へと継続した。養育者の関わり方によりこどもの発達に影響を及ぼすと示唆された。今後は養育者の関わり方に影響する要因を整理していく。

(平井栄利子)

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

15 新聞，雑誌等による報道